

いもう 葦毛通信



トウカイコモウセンゴケ

2021年9月24日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町3丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 114

1、葦毛湿原国指定記念シンポジウムを延期します！

葦毛湿原が国指定天然記念物に指定されることを記念して10月9日(土)にシンポジウムを計画していましたが、新型コロナウイルスが広がり、愛知県に緊急事態宣言が発令されましたので、**2022年2月5日(土)**に**延期**することになりました。この先の状況は不透明ですが、新型コロナウイルスの感染が落ち着き、シンポジウムが開催できることを願っています。シンポジウムの内容は以下の通りです。

題名：国指定記念シンポジウム（第6回葦毛湿原再生フォーラム）
「国指定天然記念物と葦毛湿原」

開催日：2022年2月5日（火）

会場：豊橋市公会堂（国登録有形文化財）

住所：〒440-0806豊橋市八町通二丁目22番地

定員：300名（新型コロナウイルスで定員を半分に制限、変更の可能性あり）、
当日受付先着順、参加料無料（申し込み不要）

交通：JR東海・名鉄「豊橋駅」より、市内電車「市役所前」下車徒歩2分

目的：「葦毛湿原」が国指定天然記念物に指定されることを記念して、国指定天然記念物とは何かを解説し、葦毛湿原の価値について考えます。大規模植生回復作業の歴史を報告し、自然再生や植生回復をどのように行うべきかについて市民の皆さんに紹介するとともに、次世代に継承していく天然記念物の重要性をお伝えします。

内容：「国指定天然記念物と葦毛湿原」 田中厚志（文化庁文化財調査官）
「葦毛湿原植生回復作業の歴史」 贅元洋（豊橋市文化財センター）

問合先：豊橋市文化財センター（☎0532-56-6060）



国登録有形文化財「豊橋市公会堂」（平成10年9月2日登録）：昭和6年（1931）建設

2、2021 年度モニタリング報告一4

葦毛湿原ではミミカキグサ類が満開状態です。葦毛湿原はミミカキグサ、ムラサキミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、ヒメミミカキグサの日本のミミカキグサ4種がすべて見られる貴重な湿原です。特に、ヒメミミカキグサは2012年に開花数がゼロになり、地上から姿を消しましたが、大規模植生回復作業により2013年に復活し、2020年には161花が開花しました。今年は9月12日現在で146花の開花が確認されています。今後も順調に開花数が増えると予想しています。

1) Q・R地点全体

前号でQ・R地点の①～⑥の各水田跡の状況を説明しました。東側からQ・R地点全体を見ると予想以上に早く多くの植物が出現したことが分かります(右写真)。

抜根作業直後はヌマトラノオやミゾソバ群落を残したところ以外は植物が無い裸地になりました(右上写真)。特に木道の下はネザサの根が厚く層になり土が溜まって埋まっていたが、除去して水が流れるようにしたところ良好な湿地に復元されました(右下写真)。

Q・R地点では、水田雑草や湿地性植物、荒地の植物等、予想以上に多くの植物が発芽しています。水田が耕作されていた50年ほど前にあった植物が埋土種子から復活していると思われます。抜根作業後1年目ですが、水田の土手の植物が水の中に進出し水面の面積が少なくなっているところもあります。

2) 水田由来の植物

Q・R地点ではゲンゲ(レンゲソウ)、コナギ、イボクサ等が出現しました。いずれも、



Q・R地点全体(2021年3月22日)



Q・R地点全体(2021年8月6日)

50年近く前に水田が耕作されていた時にあった植物で多くは水田雑草として、水田という環境で共存していた植物と思われます。

ゲンゲ（レンゲソウ）

ゲンゲは昨年も発芽しましたが、個体数は少なく1～2個体程度です。6月1日に開花を確認しましたが、葦毛湿原より約500m下流にある長尾池の下の水田はゲンゲ畑になり4月に開花しているので、かなり遅い開花だと思います。

水田跡は冬でも水がなくならないように維持していく予定ですので、畔等の乾燥したところにわずかに残っていくかもしれません。



ゲンゲ（2021年6月1日）

コナギ

コナギはR地点④・⑥の水田跡の冠水した中央部分から発芽し（下左写真中央）、個体数が増えています。コナギは2014年に植生回復作業を行った旧水田跡であるF地点でも確認されました。この時はF地点の旧水田の上段の5か所で狭い範囲に集中して出現し、開花しました（葦毛通信 No. 17）。F地点はその後イグサやカヤツリグサの仲間が増えて地表面が見えなくなり、コナギもわからなくなってしまいました（葦毛通信 No. 60）。現在はR地点④・⑥の水面のあちこちから発芽し個体数が増えています。



R地点④のコナギ発芽状況（2021年8月6日）



コナギの拡大

3) 湿生植物

湿生植物としては、ミゾソバ、ヌマトラノオ、ハナビゼキショウ、イ（イグサ）、ホタルイ、ボントクタデ、ヒメゴウソ、コウガイゼキショウ、シラコスゲ、コシンジュガヤ等が出現しました。

コシンジュガヤはR地点⑥の南側に蒔き出したミズゴケから発芽したもので、ミズゴケに含まれていた埋土種子から発芽したものと思われます。

シラコスゲは葦毛湿原では地上絶滅していたものが、2015年に数株復活しました。しかし、その後増えることなく推移していましたが、今回はQ地点③で2㎡ほどの群落として出現しました。



Q地点②のハナビゼキショウ



閉花後の花の拡大（2021年5月18日）

4) 抽水植物（水底に根を張り、茎や葉の一部又は大部分が水面上に出ている植物）

抽水植物としては、R地点⑥からヒメガマが出現しました。前回、コガマとして報告しましたが、ヒメガマでした。

5) 沈水植物（水底に根を張り、植物全体が水中にある植物）

沈水植物は種名がまだ確認できませんが、フラスコモと考えられるものがR地点⑥から出現しました。これから確認を行っていきませんが、ニッポンフラスコモであれば、環境省の絶滅危惧I類(CR+EN)になります。又、1種ではなく複数種の可能性もあります。



R地点⑥のニッポンフラスコモ？（2021年8月30日）

先端部拡大

Q地点①・②・③は旧水田の最上流部で、葦毛湿原内の谷に造られた水田です。最上流部は湿地だった所に水田を造成しており、周りは湿地状態だったと思われます。水田だった頃周りにあった湿生植物の種子が埋土種子として残っており、様々な植物が復活したと考えられます。これ以外にも予想以上に多くの植物が出現し驚いています（次号に続く）。